

教職支援室便り (5月号)

令和3年 5月14日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

前期：教育実習始まる



4年生の皆さんの中には、すでに教育実習が始まっている人がいます。

この教育実習の目的は、教員となるために必要な実践上、及び研究上の専門的な知識と技術を習得することにあります。そして、そのプロセスの中で、教員としての資質、学校現場の問題や課題、生徒理解の難しさやよさ、授業の難しさや成就感、教員志望の更なる情熱などを、体感することが重要です。教育実習最終日に、子どもたちから、「先生、また学校に来てください。」などと言われる喜びを、体感してほしいと願います。

はじめは戸惑いもあるかもしれませんが、貴重な体験と捉え、1日1日を大切に過ごしてほしいです。

教員免許状を取得するには

4年生前期で「教育実習事前・事後指導（1単位）」「中学校教育実習（4単位）」「高等学校教育実習（2単位）」の科目を履修する必要があります。実習期間は、中学校教員免許状を取得する場合は3週間以上、高等学校教員免許状を取得する場合は2週間以上、中学校、高等学校両方の免許状を取得する場合は中学校、高等学校いずれかで、3週間以上の実習が必要です。

卒業生からの便り

今年3月に卒業して教職に就いた皆さんは、教職1年目が始まっています。学校の1年を見通せない中での業務で、本当に大変な1年になることでしょう。しかし、様々な問題・課題に直面する中で、教職に就いた喜びを感じることもあると思います。

卒業生の便り（メール）を紹介します。

おはようございます。お電話したいと思っていたのですが、退庁の時間が遅いので、メールをさせていただきました。

1年生の副担と、1年生、2年生の英語科担当、バスケットボールの顧問、総合的な学習の時間の主任になりました。子どもたちは、すごく素直で毎日楽しいです。すごくやりがいのある仕事で、毎日あっという間に過ぎていきます。

これから、しっかりがんばります。

教員採用選考試験まで あと2か月

教職特別講座 今後の計画

教員採用選考試験（第一次試験）まで、あと2か月あまりとなりました。九州各州市の試験が、7月10日（土）、11日（日）に行われるなど、多くは7月上旬から中旬にかけて実施されます。いよいよ迫ってきた試験に向けて、本学の学生の皆さんは、意欲的に教職特別講座に取り組んでいます。

今後の講座では、下欄の演習内容を予定していますが、全体支援と個別支援を行いながら、教職教養、専門教養等の筆記試験対策に力点を置きます。学生の皆さんには、どの分野が自己の課題であるかを明確にして、演習に取り組むことが求められます。

ここで、昨年11月号で紹介した、当時4年生からのエールを、再度掲載したいと思います。

教員採用試験に合格することができましたが、正直、一次試験も二次試験も試験中は手応えはなく、試験の難しさと厳しさを感じていました。しかし、試験が終わって、「これまでの勉強は、やれるだけのことを精一杯した、これ以上はできなかった。」という清々しさもありました。今回自分が合格できた理由や方法は分かりません。ただ、これ以上できないというほど、自分なりに試験対策をしたということだけは、自信を持って言えます。また、勉強法や精神面で悩むことがあれば、一人で抱えずに先生や同じ教職の仲間へすぐ相談することが一番です。私は、本当に先生と仲間に救われました。勉強は一人ですることが多いかもしれませんが、一人でいても一人ではないという感覚になります。頼って頼られるという支え合いで、この一年を乗り切ってください。

日 曜	演習内容（予定）		
5月18日（火）	教育実習	個別支援	自主学習
5月20日（木）	教育実習	個別支援	自主学習
5月25日（火）	教育実習	個別支援	自主学習
5月27日（木）	教育実習	個別支援	自主学習
6月1日（火）	教育実習	個別支援	自主学習
6月3日（木）	教育実習	個別支援	自主学習
6月8日（火）	生徒指導提要	専門教養演習問題	
6月10日（木）	教育心理	第3期教育振興基本計画	専門教養演習問題
6月15日（火）	教職教養確認問題	専門教養演習問題	個別支援
6月17日（木）	教職教養確認問題	専門教養演習問題	個別支援
6月22日（火）	教職教養確認問題	専門教養演習問題	個別支援
6月24日（木）	教職教養確認問題	専門教養演習問題	個別支援
6月29日（火）	教職教養確認問題	専門教養演習問題	個別支援
7月1日（木）	教職教養確認問題	専門教養演習問題	個別支援
7月6日（火）	教職教養確認問題	専門教養演習問題	個別支援
7月8日（木）	教職教養確認問題	専門教養演習問題	個別支援
7月13日（火）	講話「面接力を考える」&演習		
7月15日（木）	講話「模擬授業力を考える」&演習		
7月20日（火）～ 夏季特別講座 別途計画			

面接試験の重要性その3

昨年度3月号から、教員採用選考試験における面接試験の重要性を踏まえ、これまで教職特別講座（旧：勉強会）で活用した、「面接試問例」を掲載しています。

先月号では、75の試問例を紹介しましたが、今回は72の試問例を紹介したいと思います。

- 保護者が同僚の指導力を訴えてきたときの対応
- 東京オリンピックで子どもたちに伝えたいこと
- 児童生徒が休み時間にけがをしたときの対応
- 「いじめを言わないで」と訴える子どもへの対応
- クラスに苦手な子どもがいたらどうするか
- 他の人と考えが違った場合に解決した経験
- 民間企業と教育公務員の違い
- 集団で共通した課題を解決する際に大切なこと
- 社会の変化に対応する教師の力とは
- あきらめない子どもを育てるには
- 今回の試験の手ごたえ
- 初対面の人と接するとき心がけていること
- 英語を通して何を教えるか
- 清掃指導のポイント
- いじめへの対応で一番大切にすべきことは
- 若い教師ということで保護者が苦情を言った場合
- 心のケアで大切にしようと思っていること
- 教師同士で行事を作り上げる際に大切なこと
- 教育問題に関心があること
- 高校時代における部活動の意義
- 英語が嫌いな子どもを好きにするには
- しばらく休んでいた子どもへの声かけ
- 自分を高めるために努力していること
- リーダーシップを発揮した経験
- 挨拶の大切さをどう教えるか
- ボランティア活動を児童生徒に提案するとしたら
- 保護者からの相談「子どもが人間関係に悩んでいる」への対応
- 保護者からの相談「授業が分からないので学校へ行きたくない」への対応
- 保護者からの相談「勉強させたいが、部活動で打ち込めない」への対応
- 保護者からの相談「体育のとき突き指をしたが、連絡がなかったのはなぜか」への対応
- 保護者からの相談「うちの子がいじめられている」への対応
- ピアサポートとは
- 小中一貫教育
- 合理的配慮とは
- 苦手な教科
- 主体的・対話的で深い学びとは
- カリキュラム・マネジメントとは
- 他の教師に負けないもの
- 感情的になった経験
- 教職員の不祥事
- インターネットの正しい使い方
- テストの思い出
- お金の使い方を指導するポイント
- 同僚から頼りにされる教師とは
- ワークライフバランス
- 職場の人間関係をよくするには
- 海外の出来事に関心をもったこと
- 給食の思い出
- 食生活で気を付けていること
- 困難をどのように乗り越えてきたか
- 健康管理について話をするとしたら
- 発達障害の児童生徒への対応
- 保護者から求められていること
- 教師間で意見が対立したら
- 最近の高校生について思うこと
- ボランティア活動の経験と意義
- 最近の中学生を見て感じること
- 英語の魅力は何か
- 不登校への対応
- どのようなクラスにしたいか
- 保護者に信頼される教師とは
- 児童生徒に接するときの留意点
- コミュニティ・スクール
- 性同一性障害
- 防災対策
- 特別支援教育とは
- インクルーシブ教育とは
- 目上（年下）の人と接するとき気を付けていること
- 自分を啓発するためにしていること
- 社会に開かれた教育課程とは
- プログラミング教育とは

道徳の教科化に思う！（シリーズ48）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、「教材・忘れられぬ一言・指導資料その2」として、本教材に関する発問構成等についてまとめました。

1 教材名「忘れられぬ一言」

2 出典「副読本」
日本文教出版

3 対象学年
中学校2・3年生

4 ねらい 内容項目C－（14）「家族愛、家庭生活の充実」

家族の愛情を感じながらも、素直に受け止めきれない、人間の一面があることにふれながら、家族の愛情の尊さを感じ、互いに信じ合い、助け合って家族の絆を深めようとする心情を育てる。

5 教材内容（概略）

本教材は、主人公が中学生時代に友達とけんかをし、怪我をさせてしまったことを通して父の愛情に気付く、というストーリーで構成されている。

担任の先生から家に連絡が入り、納得のいかない主人公を連れて、父は怪我をさせた友達の家へと謝罪に向かう。中学生になってから、父を避けるようになっていた主人公は、自分を悪者だと決めつけているような、父の言動に腹を立てるが、友達に謝罪を終えた後の父が、主人公に向けた言葉「しかし、おまえがそこまで怒るなんてことは、そうあるものじゃない。よっぽどのことだったんだろう。俺はおまえを信じているからな。」に愛情を感じ、忘れられない一言になる。理不尽さを感じながらも、その裏にある父の愛情に気付いていく。

6 発問構成例（展開前段） ○・・・期待する生徒の反応 ◇・・・指導上の留意点

Q1. 情けないくらい頭を深く垂れ、何度も謝る父を見たとき、主人公はどんな気持ちだったでしょう。

- なんでそんなに謝らなければならぬんだ。
- けんかの理由も聞いてくれない。父はあんまりだ。

補～主人公の立場になったとき、皆さんは父の態度を見てどのような気持ちになりますか。

- 自分も同じだ。とても腹が立ってしょうがない。

補～主人公は友達を殴ったのですから、父に不満な気持ちをもつのはどうなのでしょう。

- それにしても、主人公がかわいそうだ。相当な理由があったのだから。
- 不満な気持ちをもつことは当然だとは思いますが…。

◇ 先生から電話を受けたときのことに触れてもよいが、特に友達の家での父の様子について言及させ、主人公の行き場のない怒りに共感させる。

◇ 2つの補助発問により、生徒が自分との関わりの中で考えるようにする。

◇ 「一方的に、主人公の気持ちを考えているが、父の気持ちも考えてみよう。父は、主人公を愛していないのでしょうか？」と投げかけ、次の発問につなげる。

補～怒らず、何も言わず、無言でいた父の心の底には、どのような気持ちがあったのでしょうか。

- 他人に迷惑をかけたのだから、謝らなければいけない。
- 息子がけんかをしたのは、よっぽどのがあったのだろう。息子はつらい思いをしている。私に対しても怒っているだろう。

◇ 他人に迷惑をかけたことは事実であり、しっかり謝っている父だが、息子がけんかをしたことは相当なことがあったと思っていることに気付かせる。そして、息子がつらい思い、行き場のない怒りをもっているであろうと分かっている父について、多面的・多角的に話し合わせたい。更には、父の思いが、息子には届いていないことに気付かせる。

Q2. ずっと黙っていた父が、突然「どんなに腹が立っても……。～俺はおまえを信じているからな。」と言ったとき、主人公はどんな気持ちだったでしょう。

- 何も分からなくせに、勝手なことを言っている。
- 意味が分からない。

◇ 言葉の前半の主人公の気持ち（腹が立つ気持ち）には時間をかけず、次の2つの補助発問で生徒の心に切り込むようにする。

補～父の「俺はおまえを信じてるからな。」という言葉を繰り返すうちに、主人公の心の中に父へのどんな思いが込み上げてきたのでしょうか。

- お父さん、ありがとう。
- 自分のことを分かってくれていた。信じてくれていた。
- 悔しくてたまらない僕の気持ちを分かってくれていた。父も悔しかったかもしれない。
- 僕のことを大切に思ってくれている。

◇ 父の「俺はおまえを信じているからな。」という言葉は何度も繰り返しているときの主人公の心の中に、何度も何度も先生にわびを入れて、情けないくらい頭を低く垂れて、何度も申し訳ないと繰り返して謝った父の姿が大きく浮かんできたことを話し合い、どんな思いが込み上げてきたかについてじっくりと考えさせたい。

◇ ここは、ねらいに迫る重要な場面であることから、生徒に主人公の思いを巡らせるように支援したい。

補～声が涙でかすれていた父は、どんな気持ちだったのでしょうか。

- おまえは大切な私の子どもだ。自分が信じないで誰が信じるか。
- 本当に辛かったのだろう。

◇ 声が涙でかすれていたときの父の気持ちも多面的・多角的に話し合わせ、生徒に子を思う親の愛情を感じさせるとともに、いつも厳しく接してきた父であったが自分のことを理解し、見守ってくれてきたことを瞬間的に感得した主人公を浮き彫りにする。

Q3. 今主人公は、父にどのような思いをもっているでしょう。

- また、父に会いたい。
- いつも大切に思ってくれていたが、子どものために厳しくもした。
- 自分も父のように子どもを愛したい。

◇ 主人公の自分の父に対する思いを話し合わせる中で、父の「無私の愛」を自覚していること、また、父親になった今、自分も家族を大切に愛することを誓っていることに気付かせたい。